

松野文庫セミナー

国文学研究資料館松野陽一文庫は、国文研の元館長で、中世近世和歌の研究者であった松野陽一(1935-2018)が、長い年月をかけて丹精込めて蒐集したコレクションです。全 485 点。その大半は江戸末までの日本古典籍であり、中核は歌書、とりわけ『千載和歌集』の古写本と藤原俊成関係書、ならびに石野広通・松平定信ら近世和歌関係書で構成されています。

【参考】海野圭介・小川剛生・落合博志・神作研一編「国文学研究資料館所蔵松野陽一文庫分類目録」(浅田徹ほか編『和歌史の中世から近世へ』所収、花鳥社、2020)

開催日 2024年9月27日(金) 13:30~17:30

*同日11:30~12:15展示ギャラリートーク開催 ※裏面参照

場所 国文学研究資料館 2階 大会議室

(住所 東京都立川市緑町10-3 ※裏面参照)

挨拶 国文学研究資料館長 渡部 泰明 松野 一秀

講師 基調講演

早稲田大学教授 田渕 句美子

【演題】松野陽一の研究と言葉から —孤独と幽寂—

広島大学教授 久保田 啓一

【演題】江戸武家歌壇の媒介者たち —仁木充長・荷田在満・賀茂真淵を中心に—

講演

埼玉大学准教授 館野 文昭

【演題】『俊成卿九十賀記』研究の可能性 —松野陽一の研究と蔵書を起点として—

国文学研究資料館助教 川上 一

【演題】写字台旧蔵二十一代集の意義と展望 —松野文庫蔵『千載和歌集』から—

定員 100名

受講料 無料

申込方法 事前申込制 先着順

①Eメール bunko.seminar@nijl.ac.jp

②ウェブフォーム <https://forms.gle/zLHYa9azHQAs3JHi7>

上記いずれかの方法でお申し込みください。後日Eメールにて受講票を送付いたします。Eメールの場合は、タイトルを「松野文庫セミナー申込」とし、本文に氏名、氏名ヨミ、メールアドレスを記入し送信してください。ご記入いただいた個人情報は、当行事運営のために使用します。

受付開始 8月 1日(木曜日)

締切 9月 17日(火曜日) ただし、定員になり次第締切とします。

お申し込みはこちら



主催 問い合わせ先

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

松野文庫セミナー

挨拶

国文学研究資料館長
わたなべ やすあき
渡部 泰明



まつの かずひで
松野 一秀



基調講演

早稲田大学教授
たぶち くみこ

田渕 旬美子

【演題】松野陽一の研究と言葉から —孤独と幽寂—

藤原俊成とその時代のさまざまな作品や資料、歌人について、松野陽一は広く、奥深く論じました。その人と学問の一端について、松野文庫の蔵書にも触れつつ、国文研第4代館長であった頃のことなども少し織り交ぜてお話ししたいと思います。あわせてその研究に導かれつつ、院政期の百首歌・歌合などについても考えます。

基調講演

広島大学教授
くぼた けいち

久保田 啓一

【演題】江戸武家歌壇の媒介者たち

—仁木充長・荷田在満・賀茂真淵を中心に—

近世中期江戸歌壇の中軸を担ったのは、幕臣、各藩の大名とその家臣らの武士でした。そして江戸武家歌壇の大きな見取り図を描いたのが松野陽一です。本講演では、冷泉家と幕臣の間を取り持った仁木充長、將軍家と田安家の間で活躍を期待されながら徐々に排除されていった荷田在満、堂上派の幕臣や大名の取り巻きとして活動しつつ古学派の基盤を模索した賀茂真淵それぞれのありようを見つめ、彼ら媒介者がなぜ必要であったかも含めて、松野の見解の継承を図ります。

講演

埼玉大学准教授
たての ふみあき

館野 文昭

【演題】『俊成卿九十賀記』研究の可能性

—松野陽一の研究と蔵書を起点として—

建仁3年(1203)の賀宴の様子を記す『俊成卿九十賀記』、『源 家長日記』の抜書本である同書の伝本は、松野陽一の主著『藤原俊成の研究』に整理され、松野文庫にも二本が収められます。同書の問題を中心に、松野の研究・蔵書という二種の「贈りもの」から浮かび上がる研究課題について考えます。

講演

国文学研究資料館助教
かわかみ はじめ

川上 一

【演題】写字台旧蔵二十一代集の意義と展望

—松野文庫蔵『千載和歌集』から—

松野文庫蔵『千載和歌集』【請求番号16-87】は、西本願寺(写字台)旧蔵二十一代集のうち的一本です。これは飛鳥井雅章が書写した二十一代集の副本とされ、正本と同様に焼失した禁裏本(当時)の面影を伝えるものとして貴重です。今回、松野文庫蔵本『千載和歌集』の調査を端緒に、写字台旧蔵本の副本としての実態を詳らかにし、その上で雅章書写本の副本群が持つ意義、その可能性について検討します。



関連行事

「松野文庫の贈りもの」展ギャラリートーク

参加申込:不要

開催日 :2024年9月27日(金) 11:30~12:15

場所 :国文学研究資料館 1階 展示室

講師 :かんさく けんいち
:神作 研一(国文学研究資料館副館長)

かわた しょうこ
:河田 翔子(国文学研究資料館特任助教)

締切 9月17日(火曜日)

お申し込み
はこちら



問い合わせ先



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp